

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	副看護師長	松坂 薫
課題名	ALS患者の生活の質に影響している要因と入院生活の改善に関する研究	
研究等の概要	目的	ALS患者が入院生活の中で、どのようなところに生活の質を感じているのか、看護によるQOLの変化について検証する。
	対象及び方法	当院第3病棟入院中の意思疎通の図れるALS患者(2名)
判定	承認	

申請者	副看護師長	松坂 薫
課題名	ALS患者の誤嚥性肺炎発症とサブスタンスPの因果関係の検討	
研究等の概要	目的	筋萎縮性側索硬化症(以下「ALS」とする。)は運動ニューロンの変性により、全身の運動麻痺が起こる。また、その多くの患者は、球麻痺症状により唾液の嚥下が不能となり、誤嚥性肺炎を発症し、死の直接的原因となる例も少なくない。 嚥下を促進する物質であるサブスタンスPは、分泌量が減少すると誤嚥のリスクが高まると言われているが、ALS患者におけるサブスタンスP分泌量がどのように変化しているのかを把握することにより、ALS患者の誤嚥と誤嚥性肺炎発症件数を軽減できるのではないかと考えた。そこで今回、誤嚥性肺炎を発症する患者とそうでない患者において、サブスタンスPの分泌量と、肺炎発生時の分泌量で差があるのかを調査し、サブスタンスPの分泌量がALS患者の誤嚥性肺炎発症に影響しているかを検証する。
	対象及び方法	対象:本研究に同意を得られる、当院第3病棟入院中のALS患者 方法:1. これまでの誤嚥性肺炎発症の有無 2. 誤嚥性肺炎発症の既往の有無でグループ分け(さらにグループ内で65歳を境に年齢でカテゴリーに分ける)し、サブスタンスP濃度を測定する 3. バイタルサイン・毎月の定期採血・3ヶ月毎の胸部定期X・P写真・採痰検査のデータ収集 4. 肺炎症状が見られた際はサブスタンスP濃度測定 口腔内細菌検査・採痰検査により原因菌確認と人工呼吸器装着患者においては(CDCガイドラインの人工呼吸器関連肺炎の定義による)人工呼吸器関連肺炎との判別を行う
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	作業療法士	吉田 芳
課題名	心臓リハビリテーションによる上肢・手指巧緻の改善効果	
研究等の概要	目的	慢性心不全の患者様に対し、心臓リハビリテーションを施行して、上肢・手指の巧緻動作に改善がみられるか効果を検討する。
	対象及び方法	当院、外来通院中の慢性心不全の患者様に対して、定期的な運動強度を教育して、上肢・手指の巧緻動作の改善効果を検討する。 上肢機能評価としては、簡易上肢機能テスト(STEF)と上肢筋力の指標となる握力を測定する。
判定	承認	

申請者	看護師	大森 知佳
課題名	神経難病患者に対するタッチングの効果	
研究等の概要	目的	入院中の神経難病患者は長期臥床しているため末梢循環が悪く、末梢冷感や疼痛、褥瘡の発生誘因等様々な障害を及ぼすことが考えられる。 今回、下肢のタッチングにより皮膚表面温度の変化など、血液循環への効果を明らかにする。
	対象及び方法	対象: 本研究に同意を得られる当院第3病棟入院中の神経難病患者 10名 方法: 1)バイタルサインと唾液アミラーゼ測定と皮膚表面温測定、下肢周囲測定。 2)タッチング方法: 安静仰臥位10分、足浴10分、安静仰臥位30分。 実施日時は20日間(入浴日以外の午後14時~14時30分)とする。その日の担当看護師が実施する。 3)スタッフへタッチングの勉強会 ・タッチングへの理解と方法 ・唾液アミラーゼの測定方法
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	臨床検査技師長	相澤哲郎
課題名	心臓リハビリテーションによる加算心電図の変化	
研究等の概要	目的	慢性心不全に対して、心臓リハビリテーションを施行して、加算心電図の変化を検討する。
	対象及び方法	当院外来通院中の慢性心不全患者に対して、携帯型呼気ガス分析計を用いて、運動負荷を行いAT(嫌気性代謝閾値)・準AT(50~70%嫌気性代謝閾値)を測定して、定期的な運動強度を教育して、介入前後の加算心電図を測定してその変化を検討する。
判定	承認	

申請者	薬剤科長	山中博之
課題名	後発医薬品への採用切替前後での医業収支および患者負担の比較検討	
研究等の概要	目的	平成25年2月の薬剤委員会にて後発医薬品への採用切替が決定したが、60品目と多いため、その効果を施設側患者側両方の視点に立って検証する。
	対象及び方法	医業収支の中の医薬品費、入院患者の診療収益内のA類の推移等を調査し、まとめる。
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	理学療法士	田中稔泰
課題名	光トポグラフィ装置を使用した脳血流の変化により理学療法リハビリテーション介入効果の研究	
研究等の概要	目的	近赤外線光による大脳皮質の血中ヘモグロビン濃度を測定することにより、リハビリテーションの効果を客観的に評価する。
	対象及び方法	高度認知症外を有する入院及び外来患者様に対して、リハビリテーション介入効果前後の脳血管流測定とリハビリテーション効果を検討。
判定	承認	

申請者	作業療法士	松村菜緒子
課題名	光トポグラフィ装置を使用した脳血流の変化により作業療法リハビリテーション介入効果の研究	
研究等の概要	目的	近赤外線光による大脳皮質の血中ヘモグロビン濃度を測定することにより、リハビリテーションの効果を客観的に評価する。
	対象及び方法	対象: 高度認知障害を有する入院及び外来患者 方法: ジャンルの異なる2曲(普段鑑賞する音楽と鑑賞しない音楽)をタスクとし、リハビリテーション実施前後の大脳皮質の血中ヘモグロビン濃度を測定する。作業療法介入として、普段鑑賞する音楽に合わせて上肢機能を考慮した楽器演奏プログラムを導入。介入前後の上肢機能・訓練時の様子を評価し分析する。 併せて、認知面の評価としてリハ前後のN式老年者用精神状態尺度(NMスケール)を用いて客観的に評価する。
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	看護師長	寺嶋美由貴
課題名	各種理学物理療法による自律神経機能の変化	
研究等の概要	目的	各種理学物理療法による自律神経機能の変化を経時的に検討して、その効果を調べる。
	対象及び方法	当院外来通院中で、各種理学物理療法によるリハビリテーションを施行している患者に対して、介入前後の自律神経機能検査を行う。APGハートレーターを装着して、心拍変動スペクトル解析を行い、自律神経バランスの状態を調べて、リハビリテーション効果を検討する。 また、介入前後のカテコールアミン、コリンの血漿濃度を測定して、自律神経機能の推移を検討する。
判定	承認	

申請者	看護師長	寺嶋美由貴
課題名	心臓リハビリテーションによる心理的およびADLの効果	
研究等の概要	目的	慢性心不全に対して、心臓リハビリテーションを施行して、心理的及びADLの改善効果を検討する。
	対象及び方法	当院外来通院中の慢性心不全患者に対して、携帯型呼気ガス分析計を用いて、運動負荷を行いAT(嫌気性代謝閾値)・準AT(50~70%嫌気性代謝閾値)を測定して、定期的な運動強度を教育して、心理的及びADLの改善効果をMPI(モーズレイ性格検査)とバーテル・FIM検査で検討する。 さらに、介入前後の血圧・生化学的検査などを測定してその効果を検討する。
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	看護師長	寺嶋美由貴
課題名	栄養機能食品を使用した血圧の低下作用の効果の研究	
研究等の概要	目的	栄養機能食品である「明治メイバランスArg Mini」を高血圧症患者に投与して、降圧作用を評価する。
	対象及び方法	当院外来通院中の高血圧症患者を対象として、「明治メイバランスArg Mini」125mlを1日1回投与する。 介入前後の血圧・生化学的検査などを測定してその効果を検討する。
判定	承認	

申請者	院長	及川隆司
課題名	心臓リハビリテーションによる心機能の変化	
研究等の概要	目的	慢性心不全患者に対して、心臓リハビリテーションを施行して、心機能の変化を検討する。
	対象及び方法	当院外来通院中の慢性心不全患者に対して、携帯型呼気ガス分析計を用いて、運動負荷を行いAT(嫌気性代謝閾値)・準AT(50~70%嫌気性代謝閾値)を測定して、定期的な運動強度を教育して、介入前後の心機能の変化を心エコー、生化学的検査、画像診断検討する。 さらに、介入前後の血圧・生化学的検査などを測定してその効果を検討する。
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	理学療法士	藤原幸生
課題名	心臓リハビリテーションの歩行速度・歩行距離の改善効果	
研究等の概要	目的	慢性心不全患者に対して、心臓リハビリテーションを施行して、歩行速度・歩行距離の改善効果を検討する。
	対象及び方法	当院外来通院中の慢性心不全患者に対して、携帯型呼気ガス分析計を用いて、運動負荷を行いAT(嫌気性代謝閾値)・準AT(50～70%嫌気性代謝閾値)を測定して、定期的な運動強度を教育して、歩行速度・歩行距離の改善効果を検討する。 さらに、介入前後の血圧・生化学的検査などを測定してその効果を検討する。
判定	承認	

申請者	小児科医長	河原仁志
課題名	非接触非侵襲嚥下機能評価システムを用いて食事中の嚥下機能を評価する	
研究等の概要	目的	食事時間が嚥下機能に及ぼす影響を非接触非侵襲嚥下機能評価システムを用いて分析、評価する。
	対象及び方法	対象:60代～70代の健康状態、嚥下機能に大きな問題を持たない方を対象とする。 方法: 各対象患者に事前に食事に関するアンケートを行い、普段の食事時間や疲労感についての把握をする。 各対象者に常食を準備し、食事開始直後、4分、8分、12分、16分の合計5回の水飲みテストを本装置セッティングの状態で行ってもらう。 上記計測結果を用いて、食事時間ごとの嚥下機能の変化を計測する。
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	言語聴覚士	田畑 恵太
課題名	光トポグラフィ装置を使用した脳血流の変化により言語聴覚療法力リハビリテーション介入効果の研究	
研究等の概要	目的	近赤外線光による大脳皮質の血中ヘモグロビン濃度を測定することにより、リハビリテーション介入効果を客観的に評価する。
	対象及び方法	対象: 高次脳機能障害を有する入院及び外来患者 方法: リハビリテーション介入前後の対象者に言語課題を実施し、その際の大脳皮質の血中ヘモグロビン濃度を測定する。リハビリテーション介入前後の血中ヘモグロビン濃度の変化および言語機能を評価し分析する。併せて、認知面の評価として、リハ前後のN式老年者用精神状態尺度(以下「NMスケール」)を用いて客観的に評価する。
判定	承認	

申請者	看護師長	下柘棚 綾子
課題名	重症心身障害児(者)の摂食機能レベルに合わせた安全な摂食介助方法	
研究等の概要	目的	重症心身障害児(者)は、障害の程度により成育過程で獲得した摂食機能がそれぞれ異なる。そのため、患者個々の摂食機能の特徴を踏まえ、個々に合わせた摂食介助が実践されなければならない。重症心身障害児(者)病棟では、一人の患者に対して他職種を含む複数の介助者が関わり、毎回同じ職員が介助することは困難な状況である。また、摂食介助に関する当院での調査において、スタッフの殆どが「むせ・誤嚥・窒息の危険に関すること」患者の摂食時のポジショニングに関することについての不安を抱きながら実施していることがわかった。これらの不安に対して、患者個々の状態に合わせた安全な摂食介助の方法を検討し、昨年4月より各病棟10名づつ取り組んだ結果、安全な摂食介助及び安楽な食事摂取につながる効果がみられたため、全経口摂取患者を対象として継続して取り組み、安全な摂食介助方法の確立と摂食介助の標準化を目指す。
	対象及び方法	対象: 重症心身障害児(者)病棟の介助(全介助、一部介助含む)にて経口摂取している患者。 5病棟15名 6病棟17名 方法: 対象患者の摂食機能把握 ・食事状況記録表 ・摂食機能療法、摂食嚥下訓練実施指示経過記録表を用いて1週間評価 のデータ分析を言語聴覚士に依頼、食事カード使用前後の摂食機能評価 ・反復唾液のみテスト ・改良水飲みテスト ・アイスマッサージ後の嚥下反射 ・嚥下のタイミング ・食事観察内容(食形態、食具、トロミ、介助方法) 各病棟で、摂食標準看護計画を基に担当看護師、言語聴覚士、指導員、保育士を交えカンファレンス実施 カンファレンス結果を基に食事カード作成 ポジショニングと増粘剤(トロミ)の学習会(新採用、勤務交代者あり) スタッフへのアンケート調査 摂食介助実施状況のチェック
判定	承認	



倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	言語聴覚士	古内 洋
課題名	電気治療器バイタルスティムによる脳血管障害による嚥下障害患者に対する嚥下機能に及ぼす効果について(第2報)	
研究等の概要	目的	皮膚(特に嚥下に関わる咽頭筋上の皮膚)に電極を装着し、低周波電流を流し筋萎縮改善に用いられる神経及び筋刺激を行う装置を使って、嚥下障害患者に対して、嚥下機能の改善(喉頭拳上、舌骨の位置上昇、嚥下スピードの改善など)への効果があるかを研究することを目的とする。
	対象及び方法	対象: 外来受診している嚥下障害患者 方法: 機器を使った訓練の前後に嚥下造影検査を実施し、検査前後での 1. 舌骨の位置の変化 2. 喉頭拳上範囲の変化 3. 喉頭拳上スピードの変化 を測定し、効果を確認する。
判定	承認	

申請者	言語聴覚士	古内 洋
課題名	嚥下造影検査の誤嚥による患者のリスクを軽減するためのフローチャート作成と簡易咳反射誘発試験の検討によるVF事前検査の研究(第2報)	
研究等の概要	目的	当院では嚥下造影検査(以下「VF」という。)を行う際に、硫酸バリウムを検査食に混ぜて行っている。検査は、医師から家族の承諾を頂いて行っているが、検査中の誤嚥のリスクは避けられない。当院のVFでの誤嚥も過去2年間に度々認められ、患者にリスクが少なくVFが行えるような体制、方法が必要であると考え。そのため、よりリスクの少ない状態でVFが行えるようなフローチャート作成や、事前に行える簡易な嚥下、咳反射に関する検査の検討をしたいと考える。
	対象及び方法	対象: 当院で、今までVFを実施した患者データ及び今後VFを行う予定の患者 方法: 1. 当院で今までVFを行った患者の状況をデータを基に分析する。 2. 分析結果を基にVFまでのフローチャートを作成する。 3. クエン酸水溶液とネブライザーを使った咳反射誘発テストを実施する。
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	言語聴覚士	古内 洋
課題名	脊髄小脳変性症患者に対する聴覚フィードバック法を用いた発話速度のコントロールについて	
研究等の概要	目的	脊髄小脳変性症は、声の大きさの過度の変動(爆発製発話)や音・音節の持続時間が不規則に途切れる(断綴性発話)など、発話をコントロールできないことが主な構音症状である。発話速度をコントロールする方法は、タッピング法やフレージング法が代表的であるが、今回はそれらに加えて、聴覚的なフィードバックを強化することで、発話改善に効果があるかを目的に行う。
	対象及び方法	対象: 当院外来で言語リハビリを行っている脊髄小脳変性症患者 方法: 1. 「短文の音読」と「フレージング法により発話をコントロールした状態での音読」を録音機に録音する。 2. 発話後すぐに録音した発話を患者に聞かせる。 3. フレージングを除去し、再度短文の音読を実施する。 4. これらを繰り返す。
判定	承認	

申請者	薬剤師	中島 舞
課題名	カプサイシンフィルムによる嚥下機能改善の試み	
研究等の概要	目的	カプサイシンフィルムの有用性を確認する。
	対象及び方法	対象: 60歳以上の男女で、食事を経口摂取している者 方法: カプサイシンフィルムを摂取する前後で、嚥下機能に関する検査を行い変化を見る
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	理学療法士	大友 康平
課題名	温熱療法が患者身体に与える影響に関する臨床研究	
研究等の概要	目的	機能面・能力面・痛み・浮腫・精神面で評価し、主に疼痛と痺れなどの自覚症状の変化に重点を置き、温熱療法を施行していく。身体にどのような影響を及ぼしているかを検証する。 また、NeuroMeterNS3000を用いて温熱療法施行前後に痛覚検査を実施し、客観的指標を加えて温熱療法の効果判定をしていく。
	対象及び方法	対象: 外来通院中の温熱療法が処方されている患者様 方法: パラフィン浴とAUVÉなどを施行する
判定	承認	

申請者	運動療法主任	八木橋 清子
課題名	呼気ガス分析装置を使用しての運動強度測定とデジタル歩数計での運動強度の比較検討	
研究等の概要	目的	平成24年9月より、外来にて慢性心不全患者に対して呼気ガス分析装置を用いて心肺運動負荷試験を行い、嫌気性代謝閾値AnaerobicThreshold(以下AT)を測定し、運動耐用能の把握、運動強度を決定し運動を指導している。運動指導の方法としては、日常でデジタル歩数計を装着し歩行等を指導するという簡易的な方法で行っている。その際、デジタル歩数計での一般的な運動強度や消費カロリーを指標として行っているが、実際患者にとって、どれ位の運動強度で行っているのかは不明である。今回、健康成人にデジタル歩数計装着下にて呼気ガス分析装置を用いて心肺運動負荷試験を行い、運動強度等(実測値)を測定しデジタル歩数計で表示される運動強度等との比較検討をする。
	対象及び方法	健康成人に対してデジタル歩数計を装着し、携帯型酸素消費量計エアソニックAT-1100を用いて心肺運動負荷試験を行う。
判定	承認	

## 倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	診療放射線技師長	庄司俊雄
課題名	心胸郭比(CTR)計測による心臓リハビリテーション効果判定の検討	
研究等の概要	目的	慢性心不全に対して心臓リハビリテーションを施行した患者において、介入前後の胸部X-Pにより心胸郭比(cardio thoracic ratio;CTR)を計測し、心臓リハビリテーションの効果判定の可能性について検討する。
	対象及び方法	外来通院中の慢性心不全患者に対し、携帯型呼気ガス分析計を用いた運動負荷を行い、AT(嫌気性代謝閾値)・準AT(50~70%嫌気性代謝閾値)を測定する。介入前後の胸部X-PのCTRを計測し、心臓リハビリテーションによる定期的な運動負荷教育による効果判定をCTRの変化として捉えることが出来るか検証する。 また、その他の臨床指標との関連性について検証する。
判定	承認	

申請者	臨床検査技師	庭田智子
課題名	心臓リハビリテーションによるBNP/耐糖能の効果	
研究等の概要	目的	慢性心不全患者に対して心臓リハビリテーションを施行し、BNP及び耐糖能の改善効果を検討する。
	対象及び方法	外来通院中の慢性心不全患者に対して、携帯型呼気ガス分析計を用いて運動負荷を行い、AT(嫌気性代謝閾値)・準AT(50~70%嫌気性代謝閾値)を測定。介入前後の生化学的検査等を測定し、その効果を検討する。
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	臨床検査技師	庭田 智子
課題名	尿中サブスタンスPの臨床医学への応用 - 血漿・唾液サブスタンスPとの比較 第二報 -	
研究等の概要	目的	サブスタンスPは、嘔下反射や咳反射に係わる非常に重要な物質である。現在、血漿・唾液について測定されているが、尿においても測定可能となった。そこで、血漿・唾液・尿サブスタンスPを比較し、関連について検証する。
	対象及び方法	当院入院中の筋萎縮性側索硬化症患者、脳疾患患者と摂食嚥下外来受診患者を対象とし、血漿・唾液・尿サブスタンスPを比較し、関連について検証する。
判定	承認	

申請者	医事係長	松本 圭
課題名	心臓リハビリテーションによる受診行動の変化	
研究等の概要	目的	慢性心不全患者に対して、心臓リハビリテーションを施行して、受診行動の変化を検討する。
	対象及び方法	外来通院中の慢性心不全患者に対して、携帯型呼気ガス分析計を用いて、運動負荷を行い、AT(嫌気性代謝閾値)・準AT(50~70%嫌気性代謝閾値)を測定して、定期的な運動強度を教育して、介入前後の受診回数と費用を算定して、受診行動の変化を検討する。
判定	承認	

倫理委員会議事概要 平成25年2月28日開催分

申請者	副看護師長	野澤 万寿実
課題名	「フィッシュ哲学」の導入～フィッシュ活動後のY G性格検査の検証 第2報～	
研究等の概要	目的	組織の活性化とスタッフの士気向上のためのフィッシュ活動を継続し、個々の資質や意識の変化を客観的に検証するためY G検査を実施する。得られた結果から現状での取り組みの有効性や今後の活動の方向性を検討する。
	対象及び方法	<p>対象: Y G性格検査 説明を受け、同意が得られた看護課職員44名 アンケート調査 看護課職員</p> <p>方法: 「フィッシュ哲学」についての理解を深めるため、学習会を実施。 相手に関心を寄せる・相手を喜ばすなどを踏まえた、スタッフ個々への日々の声かけ。(ケアや関わりの中で、よかったこと・真似したい良い取り組みなどをタイムリーに褒めたり、ねぎらいの言葉をかける)スタッフや患者・家族に対し、笑顔やスキンシップを取り入れ挨拶を交わす。 取り組みの経過報告やフィッシュ活動の浸透を図るため、新聞を発行。態度を決める目的で、フィッシュの4つのコツを取り入れたポスターを掲示。 相手に関心を寄せる・相手を喜ばす・遊び心を持って仕事する目的で新人やスタッフにメッセージカードを配布。 相手を喜ばす・遊び心を持って仕事するため、病棟の装飾や季節の行事を行う。 以上の取り組みを継続しながら、Y G性格検査を実施、再度検査・アンケート調査する。</p>
判定	承認	

申請者	看護師長	近江谷 留里子
課題名	入浴介助における骨折予防対策「安全な援助方法の統一に向けて」	
研究等の概要	目的	病院の特徴として、神経難病患者や重症心身障害児(者)の超・準重症児(者)が全体の45.3%を占め、殆どの患者が日常生活援助を要している。変形や拘縮に加え、寝たきり等の骨粗鬆症により骨折のリスクが高く、毎年、骨折の発生がある。そこで、移乗から衣服の着脱まで、一連の介助の中に多くの援助技術を必要とし、さらに複数の介助者を要する入浴に関して介助方法を見直し、介助者全員が安全な援助技術を習得し、統一した介助を実践することで介助者による骨折リスクを減らす。
	対象及び方法	<p>対象: 病棟の全スタッフ96名 方法: 入浴介助方法について現状の把握と要因を分析後、対策を立案・実施し評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)現状からの要因分析 スタッフから入浴介助のストレッチャーへの移乗、脱衣、入浴、着衣、ベッドへの移動の5項目について、骨折の危険や不安を感じていること、安全・安楽のために注意・工夫している点について意見を収集しKJ法でカテゴリー分類し整理する。</li> <li>2)対策立案 要因と考えられる行動に対しての対策をもの・人・スキルの3項目で評価し、対策を立案する。</li> <li>3)スタッフへの周知と技術習得 入浴介助の手引きを理学療法士の監修を受け作成し、スタッフ全員に実技研修を実施する。</li> <li>4)評価 研修1・3・6ヶ月後にチェック表に沿った自己評価と他者評価をする。</li> </ol>
判定	承認	